

論文審査の要旨

|  |                |         |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
|--|----------------|---------|---------|-----|-----|---------|--|------|-----|---------|--|------|-----|---------|--|------|-----|---------|--|------|-----|---------|--|
| 博士の専攻分野の名称   | 博 士 （ 教育学 ）    | 氏名      | 中 村 光 則 |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| 学位授与の要件  | 学位規則第4条第1・2項該当 |         |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| <p>論 文 題 目</p> <p style="text-align: center;">高等学校地理における ESD 授業の開発研究<br/>－ ESD コンピテンシーの育成のための地理学習 －</p>  |                |         |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| <p>論文審査担当者</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">主 査</td> <td style="width: 25%;">教 授</td> <td style="width: 25%;">由 井 義 通</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>畠 中 和 生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>草 原 和 博</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>永 田 忠 道</td> <td></td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>熊 原 康 博</td> <td></td> </tr> </table>  |                |         |         | 主 査 | 教 授 | 由 井 義 通 |  | 審査委員 | 教 授 | 畠 中 和 生 |  | 審査委員 | 教 授 | 草 原 和 博 |  | 審査委員 | 准教授 | 永 田 忠 道 |  | 審査委員 | 准教授 | 熊 原 康 博 |  |
| 主 査  | 教 授            | 由 井 義 通 |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| 審査委員   | 教 授            | 畠 中 和 生 |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| 審査委員   | 教 授            | 草 原 和 博 |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| 審査委員   | 准教授            | 永 田 忠 道 |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| 審査委員   | 准教授            | 熊 原 康 博 |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |
| <p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本研究の目的は、ESD の理念を授業レベルで具体化することで高等学校における地理歴史科地理の授業改善を図ることにある。地理歴史科地理の授業において、なかでも学習指導要領の改訂によって新設された地理総合と地理探究の授業において ESD の視点を取り入れて授業を改善することが、持続可能な社会の実現に貢献できる資質能力の育成につながる。また、ESD を地理歴史科地理の授業の開発及び実践において具体化することにより、地球的課題解決に取り組む ESD コンピテンシーの育成を図ることができると考えられ、意義のある研究といえる。</p> <p>本論文は以下の5章から構成される。</p> <p>第一章では、ESD の国際実施計画、国際地理学連合地理教育委員会のルツェルン宣言の分析及び国立教育政策研究所（2010）が整理した「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を検討し、高等学校地理における ESD 授業で育成するコンピテンシーについて明らかにした。また、「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の4つの能力（①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力）と3つの態度（⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度）を育成することによる「持続可能な社会づくりに参画する能力・態度」の育成について検討した。</p> <p>第二章では、「チェックシート型アプローチ」による地理学習の改善を図ることを目的とした。「チェックシート型アプローチ」とは、縦軸に ESD で求められる内容（概念）群を、横軸に ESD で求められる方法（技能）群を示したマトリックス図を用いて授業を分析するもので、本研究では従来行ってきた授業に ESD で求められる内容（概念）や方法（技能）を追加することによって、ESD の内容を取り込んだ授業による授業改善を図った。本章では高等学校地理の単元「地球環境問題」の授業を分析対象として、授業改善を行った。</p> <p>第三章では、「視点整理型アプローチ」を用いることによって、前地理学習の改善を図ることを図っている。「視点整理型アプローチ」により、各教科等の中で ESD の視点に立</p> |                |         |         |     |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |      |     |         |  |

った学習を展開していくために、ESD の目標を必要最小限に単純化して表し、実践を行う教科・分野・単元等の目標に、ESD の目標を付加することを通して高等学校地理の単元「資源・エネルギー問題」(地理A)の授業計画に、他者との協力や多面的考察による将来の予測、「自分の考えの根拠を明確にした。さらに、他者の意見も聞きながら、再度自分の考えを吟味する」などの ESD の目標を付加することによって授業改善を図り、授業実践を行い、その学習効果について検討した。

第四章では、国立教育政策研究所(2012)において ESD で求められる内容(概念)群に「危機管理・危険回避」を新たに追加し、地図上の情報を読み取り自然災害から身を守る防災について考察する ESD 授業を開発・実践した。それにより授業改善を図り、ESD で育成する能力・態度を、地理的技能を活用することによって育成できることと、読図が「未来像を予測して計画を立てる力」の育成につながり、「未来像を予測して計画を立てる力」の育成が社会参画につかながることを明らかにした。

第五章では、地域的諸課題のうち、地域での危険回避を扱う単元として「防災地域づくり」と GIS で作成した「犯罪発生マップ」を利用した「防犯地域づくり」の地理 ESD 授業を開発し、実践した。これらの授業では、人間活動と自然環境や、人間活動と生活環境をそれぞれ組み合わせて考察する「システムティック」の視点と、社会や生活全体を広く俯瞰して考察する「システムミック」の視点から考察する「システム思考」の育成に有効であることを明らかにした。

終章では、各章の分析と考察結果から、ESD コンピテンシーを育成する地理学習において重要となる参加型の授業やフィールドワークを実施する授業を多様な学力レベルの高等学校においても実践可能かという点と、未来社会を予測する学習において生徒個々の学習評価の精緻化が課題として挙げられる。

本論文は、以下の2点で高く評価できる。

第1は、平成29年版学習指導要領の高等学校地理歴史科地理総合と地理探究で重要視されている ESD の視点のうちコンピテンシーの育成に焦点を当てた研究であり、地理学習で育成する資質能力として思考力とスキルの育成に着目した授業開発に取り組んだ点は先見的であり高く評価できる。特に、地理的資質能力の育成に関して、本研究で取り上げた ESD で育成するシステム思考力は、自然環境、社会環境などを関連付けながら考察する力を育成するものであり、地球的課題の解決に取り組むためにはどのような資質能力を育成することが必要であるかを示した点で優れている。

第2は、ESD に取り組む地理教育の国際的動向としての国際地理学連合(IGU) 地理教育委員会が提示したルツェルン宣言に対応したコンピテンシー育成の授業開発において、チェックシート型アプローチや視点整理型アプローチによりいかにして「未来像を予測して計画を立てる力」を育成するのかを検討し、地球環境や防災などに関連した地球的課題を理解し、課題解決のためにどのようなコンピテンシー育成が求められているのかを検討し、地理教育における授業改善の課題を明らかにしたことである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和4年 2月 14日